牡丹燈籠

帝キネ時代映畫　三遊亭圓朝

原作者　三遊亭圓朝
脚色者　上島量
監督者　山下秀一
撮影者　山下秀一
　　——主要役割——
萩原新三郎　松本田三郎
日翁堂周齋　長田芳川
真行和尚　寶川延笑
伊織　松本田三郎
おみね　松枝鶴子
山本志丈　田中辨樂
飯島平右衛門　片岡童十郎
娘お露　三笠加壽江
妾お國　阪東勝代
侍女お米　三桝鶴子
宮邊源次郎　結城三重郎

解説——山下秀一氏の「緋鹿子草紙」に次ぐ作品である。

略筋——旗本飯島平右衛門の娘お露は明神の祭禮の賑ひで幇間志丈が取り持つ縁でふと情を交した萩原新三郎に戀ひ焦れてゐた。平右衛門の妾お國は隣家の次男坊宮邊源十郎と密通してゐたが、それを憤つたお露の乳母から平右衛門に密告され二人は斬られた。しかし傷を負つたまゝ又の下を逃れたので平右衛門は怒りの爲め氣が狂つた。平右衛門の狂氣に脅えた志丈はお露の賴みも新三郎の願ひも聞かず、兩方へ相手は死んだと僞つた。新三郎はお露を死なせたことを悲しみつゝ盂蘭盆會の精靈祭りをして伏床に入つたが、夜更け、下駄の音と共にお露は乳母に導かれて通つて來た。兩人のたわ言を聞いた使ひ男伴藏夫婦の驚き、周齋の機轉で真石和尚に會つた新三郎はお露の白骨を見て愕然とする。が間もなく新三郎はお露の亡念の爲め死んで了つた。